

# 郡上農林事務所の普及活動状況

令和3年2月25日現在

## 今月の重点活動

### ■スマート農業 農業大学校にてスマート農業の特別講義

農業普及課では、2月10日に農業大学校の野菜・果樹学科学生18名を対象とし、今年度取り組んだ「ひるがの高原だいこんスマート農業実証プロジェクト」の特別講義を行った。

講義では、「ひるがの高原から広がるスマート農業」と題したプロジェクトの紹介動画のあと、現地で取り組んだスマート農業機械の実証結果について、分析データなどを用いて説明した。

最後に、学生が栽培している野菜や果樹について「こんな機械や仕組みがあったらいい」といったスマート農業への新たな提案のレポートを作成して、講義を終了した。

農業普及課は、実証プロジェクト等の成果をもとに若者が夢を持てる農業を目指して、スマート農業の普及に取り組む。



【スマート農業の特別講義】

## 多様な担い手づくり

### ■新規就農者 農業次世代人材投資事業（経営開始型）個別面談

2月2日、農業次世代人材投資事業（経営開始型）の受給者への就農フォローアップとして、JAめぐみの営農経済センターにて郡上市、JAめぐみの、郡上農林事務所による個別面談を実施し、就農状況や今後の営農について質疑や助言を行った。

面談では、就農計画に沿って順調に目標を達成している者に対しては今後の目標等の確認を、目標を下回っている者には、その原因や改善策について質問し対策などの指導を行った。

農業普及課は、日ごろ受給者へ直接指導をしていることから、指導状況等について補足し、就農計画の早期達成に向けてアドバイスを行った。



【面接を受ける就農者】

### ■新規就農者 石徹白地区の雪害対策指導

郡上市石徹白地区では、ほうれんそう農家の他に、昨年からは郡上トマトの学校の修了生も営農を開始している。

しかし同地区は、近年は温暖化の影響で降雪量は減少傾向にあるとはいえ、これまで度々雪害による影響を受けている。

そのため、パイプハウスは耐雪型の太いパイプ径を使用、高軒高でタイバーによる補強をしているが、それでもアーチ部分まで積雪すればハウス倒壊の危険がある。

本年は、降雪量が多いことから、農業普及課では2月上旬に積雪状況を確認して、改めて対策について指導した。



【ハウスの積雪状況】

### ■就農支援 「郡上トマトの学校」の運営協議

2月9日、JAめぐみの白鳥営業所において、郡上市、JAめぐみの、郡上農林事務所による「郡上トマトの学校」運営会議を開催した。

本会議は、施設の設置要綱に基づき定期的で開催しているもので、今回は今年度の実績と来年度の計画について協議した。

今年度は、平成 31 年度 4 月の入校生 1 名が、昨年を上回る収量を確保するなど令和 3 年度からの就農に向け十分な技術と管理能力を身に付け、2 年間の研修を終えた。現在は、4 月からの営農開始に向け、施設整備など順調に準備が進んでいる。

また、会議では来年度新たに 1 名の研修生を迎えることから、本年度の結果を踏まえて作業効率に着目した研修体制に改善することとした。

今後も、農業普及課では、「郡上トマトの学校」の講習に参画するなど、新規就農者の育成を進めていく。

### ■農業経営 高鷲地域にて農業簿記勉強会を開催

農業普及課では、郡上市高鷲地域の農業者を対象に J A めぐみとの連携し、農閑期に定期的な農業簿記勉強会を開催している。

今年度は、12 月 17 日～3 月 11 日の間に計 7 回の開催予定で、だいこん、夏秋いちご、花きと様々な品目の農業者が参加し、簿記ソフトを利用して記帳に取り組んでいる。

勉強会は、農業普及課と J A の担当者がマンツーマンで指導しているが、継続して開催することで参加者のパソコン操作だけでなく、経営を見る目を養うことを狙いとしている。

農業普及課では、今後も記帳指導とともに結果を基にした各農家の経営改善を支援する。



【パソコンで簿記記帳】

## 売れるブランドづくり

### ■水稲 ドローンによる病害虫防除計画の作成支援

郡上市内では、土地利用型経営体の 4 組織がドローンを導入し、本年 4 月から大麦や水稲を対象に約 100ha の農薬散布を計画している

管内でははじめてのドローン利用とあって、郡上市、J A めぐみの、郡上農林事務所では農薬散布の注意事項を指導するとともに、防除計画の作成支援のための個別巡回を行った。

2 月中旬に各経営体に対して、市・J A の担当者が近隣住民への事前周知方法、飛行に関する各種手続きについて説明し、農業普及課からは散布予定圃場の事前確認、農薬の適正使用など防除計画作成のための助言を行った。

今後、農業普及課ではドローンによる農薬散布について、作業性の確認や普及に向けた課題の抽出を行う予定である。

### ■だいこん スマート農業実証プロジェクト成果検討会が開催

2 月 1 日、「ひるがの高原だいこんスマート農業実証プロジェクト」の成果検討会が、オンライン形式で開催された。

検討会では、はじめに今年度実施した実証結果について農業普及課から説明し、農研機構のプロジェクトオフィサーはじめ研究組織や企業など参画した機関が意見交換を行った。

実証経営体の(株)エスタシアの清水代表からは、実証に使用した機械の有効性や改善点などについて、利用者ならではの提言があった。また、一部の機械で導入時期が遅れ、十分な実証が出来なかったこともあり、次年度以降も導入した機械で、だいこん経営に合ったスマート農業技術の実証を進めていくこととなった。

農業普及課では、今年度の成果を踏まえて、来年度も自動運転トラクタなどのデータ収集を重ね、更なるスマート農業技術の普及に取り組む。



【オンラインでの会議】